

よくある質問 Q&A



Q1. サービス付き高齢者向け住宅 サンサーラ・レジデンスの特徴は？

A1.⇒一般住宅にお住まいの高齢者が、生活にどうしても必要な、食事(食材購入・調理、栄養管理)や設備の管理を事業者任せ、自由に、安全かつ安心して暮らすための賃貸住宅です。この先の人生に向けて、前向きに準備することで、今をよりよく生きる環境を提供します。

Q2. 本当に、ひと月169,500円(住むための費用 + 食費)で暮らせるの？ 他の費用(生活支援サービス)がかかって毎月の負担がとて大きくならないのでは？

A2.⇒現在ご入居されているかたのひと月の支払額の平均は15万円台です
これには食費を含む生活支援サービス費用と電気代を含みます(平成29年4月現在)
ちなみに電気代はひと月平均1,800円くらい、食費は1日平均1,100円位です

Q3. お部屋の広さはどれくらい？

A3.⇒ 21㎡、約12畳です。但し、その中にトイレとシャワーのスペースを含みます

Q4. 生活支援サービスってどんなもの？

A4.⇒自分でできないことを頼めるサービスと考えられてはどうでしょうか？つまり、自分でできることは頼む必要がないので、サービスを利用することがありません。当然、費用も掛かりません。

Q5. 生活支援サービスの実際の利用状況は？

A5.⇒必要に応じてご利用いただくサービスなので、食事を除けば、食事介助、入浴介助、居室清掃などがあり、ご自分でできる場合は必要ありません。現在ご入居いただいている方の月平均利用額は食事を除くと一人平均900円くらいです。内容的にはリネン交換(ひと月1,200円)のご利用が多いです。全然利用されない方も居られます。

Q6. 入居するときに契約金(まとめて数百万払う等)は必要ないの？

A6.⇒有料老人ホームなどでは多くが利用権方式という形態で、入居時に一時金(数百万円～数千万円)別途、毎月利用料を支払うというものですが、サンサーラ・レジデンスは普通賃貸契約です。街中にある賃貸住宅・賃貸マンションのように入居時は敷金(家賃の2ヶ月分)をお支払いいただき、毎月家賃を支払う形態です。実際の事例では入居時の支払額が27万円を超える方はおられません。

Q7. 今利用しているヘルパーや訪問医療のサービスは？

A7.⇒今ご利用の事業所や医療機関側が可能であれば、今まで通り利用することが可能です。選択される事業所・医療機関に特に制限はありません。お申込み時に状況を確認し、入居の際、円滑に利用が始められるようご支援致します。

よくある質問 Q&A

Q8. 住み替えたら家はどうしよう？

A8.⇒長年親しんだ大切な資産です。1.家族に残す、2.売却して生活を豊かに、3.所有しながら貸して活用する。可能な限りご相談に対応致します。第三者に貸す場合でも、国の基金を利用した移住・住みかえ支援機構なら安心です。

Q9. 外出や外泊に関する制限は？

A9.⇒特にございませぬ。これまでご自宅でされていたように、近所のスーパーで中食、郊外の美食フレンチでの外食、癒しの日帰り温泉浴、海外クルーズ7日間などご自由にどうぞお過ごし下さい。

Q10. お風呂は部屋にあるの？

A10.⇒ お風呂はお部屋にはありません。共有バスルームがございます。入浴したい時間を職員にお伝えいただければ、お湯はりまでご準備致します。浴槽のお湯の排水、浴室内洗浄は職員が行いますので、入浴後はそのまま退出していただけます。

Q11. まだ入居するには早いかな？

A11.⇒サンサーラ・レジデンスの場合、ご入居の時期はご自身で決めておられます。自分で住むところは自分で決める。決めたい。そのためにも、「まだ早い」「もう少し先」「一人になってから」とおっしゃる方には、ぜひ、今、見学してよく見ていただきたいと思ひます。もし、ケガや病気で入院してしまうと、見学どころではありません。いわゆる施設に入所することは本人以外が決めることがあっても、自分の住む家は自分で決めることに拘りたいですよ。

Q12. これからずっと住んでいけるかわからない？

A12.⇒私どもではサンサーラ・レジデンスを高年齢者の暮らしやすい住まいと考えています。たいていは、未長くお住まいになられる前提でご入居されますが、そうでない場合でも半年程度のみドルスティでの利用が可能です。試しにどんなものか生活してみる。自宅で不安な間だけ居住するなどの利用が可能です。普通賃貸契約なので比較的、費用負担も少なく済みます。生活するのに最低限必要なベッド、トイレ、シャワー、エアコン、洗面、収納、机等はあらかじめ準備されているのですぐに生活を始められます。

Q13. 敷地内にある白い大きな塔、仏舎利塔ってなに？

A13.⇒「舎利」の2字は梵語(古代インドの文語であるサンスクリット)の音訳であって、その意味は「身体」でありますので、仏舎利とは仏さまの御遺骨のことをいいます。この塔に安置してある真身舎利(しんしんしゃり:釈迦の遺骨・遺灰・毛髪など⇔法舎利[ほっしゃり])は、インド・ニューデリー博物館に納められていたもので、創設者川嶋貞子刀自が昭和32年1月ネパールで開催された世界仏教徒会議に日本代表として出席した帰途、ニューデリーに立ち寄った際、首相官邸で時のネール首相より世界平和のシンボルとして手渡されたものです。これを安置するために私費を投じて建立したものが現在の「仏舎利塔(ぶっしゃりとう)」です。